

令和5年度 第1回学術集会プログラム等検討委員会議事録

日時: 令和5年4月15日(土) 7:00~8:00

場所: 札幌コンベンションセンター1階103会議室

出席委員

(担当理事)根尾昌志、(委員長)種市洋、(理事長)波呂浩孝、伊東学、井上玄、大鳥精司、川口善治、土井田稔、永島英樹、中村雅也、長谷川和宏、松山幸弘、渡辺雅彦
(オブザーバー)稲見 聡、酒井大輔

欠席委員

高相晶士

報告事項

1. 前回議事録確認 (資料1)
2. 理事会報告 (根尾担当理事)
 - ・ 指導医イブニングセミナーの開催形式は、オンサイトでもウェブ併用でも良い。
 - ・ アワードセッションを設ける。
 - ・ 海外招聘演者の費用負担上限を設ける。
 - ・ 日本脊椎脊髄病学会プログラムガイドラインの必要性について審議が必要。
 - ・ 波呂理事長から発言: 指導医イブニングセミナーの演者はこれまで各学術集会会長が選出していたが、今後は指導医制度委員会で検討していただき決定することになった。指導医イブニングセミナーは、春の学術集会と秋のスパインウィークで1年に2回の開催を検討する。
 - ・ 大鳥委員から総会の開催時間を昼から朝にするメリットについて説明があり、多数の委員が賛同した。
3. 第51回学術集会開催報告 (中村雅也会長) (資料2)
 - ・ 会期: 2022年4月21日~23日、開催形態: 現地開催
 - ・ 会場: パシフィコ横浜
 - ・ 参加人数: 2392人、発表演題数: 1012演題
4. 第52回学術集会準備報告 (種市 洋会長) (資料3)
 - ・ 会期: 2023年4月13日~15日、開催形態: ハイブリッド開催(現地+オンデマンド)
 - ・ 会場: 札幌コンベンションセンター、札幌市産業振興センター
 - ・ 参加人数 2511人 (14日時点)
 - ・ 応募演題数: 1475演題、採択演題数: 1067演題(採択率 72.3%)
 - ・ 企業協賛: セミナー45、企業展示 56、広告 4

- ・その他：ランチョン弁当を 1200 個に増やしたが、14 日は足りなかった。
5. 第 53 回学術集会準備報告（渡辺雅彦会長）（資料 4）
 - ・会期：2024 年 4 月 18 日～20 日、開催形態：現地開催予定
 - ・会場：パシフィコ横浜 会議センター
 - ・演題募集期間：2023 年 8 月 23 日～10 月 11 日
 - ・海外招聘演者の費用負担額は、地域により上限を設ける（詳細は審議事項に記載）。
 - ・渡辺会長から、APSS のクワン会長から合同シンポジウム開催の提案があった旨の報告があり、委員全員が賛成した。
 6. 第 54 回学術集会準備状況（高相晶士会長・代理 井上先生）（資料 5）
 - ・会期：2025 年 4 月 17 日～19 日
 - ・会場：幕張メッセ

審議事項

1. 第 55 回学術集会準備状況（永島英樹会長）（資料 6）
 - ・会期：2026 年 4 月 16～18 日
 - ・会場：福岡国際会議場・マリンメッセ福岡 B 館
 - ・予算案において JCS とインタープランは同程度、コングレは若干収支に相違が認められた。今回の委員会でコンベンションは JCS に決定した。
2. 第 56 回学術集会準備状況（長谷川和宏・川口善治会長）（資料 7）
 - ・会期：2027 年 4 月 15～17 日
 - ・会場は未決定だが、札幌、京都、横浜、神戸が候補として検討された。複数の委員が、会場を早急に決める必要があると提言し、早々に各会場の予約状況を確認して決定することとなった。
 - ・コンベンションは、JCS、インタープラン、コングレなど検討している。次回までに決定する。
3. 海外招聘演者の費用負担について（種市 洋委員長）（資料 8）
 - ・波呂理事長が、他の学会でも費用負担の上限があるので JSSR でも決める必要がある旨を説明した。
 - ・種市会長が、資料 8 の第 9 回日整会理事会で改定された海外招待演者の旅費の上限について説明した。（アジア：300,000 円、オセアニア・カナダ・ヨーロッパ等：800,000 円、アメリカ 1,500,000 円）
 - ・渡辺委員が、53 回学術集会での費用上限（謝金含む）はアメリカ：10,000 ドル、オセアニア・ヨーロッパ：8,000 ドル、アジア：3,000 ドルに設定すると説明し、根尾担当理事と波呂理事長が、JSSR も海外招聘演者の費用上限を設定し金額は日整会の基準以内で会長が決定することで良いと発言した。
 - ・川口委員が、国際委員会が招聘した演者と会長が招聘した演者を区別せずに国際委員

会ディナーに招待するべきと発言し、各委員からの異論は無かった。

・波呂理事長が、これまで NASS から 2 人参加していたが今回は不参加であった事を指摘し、来年の学術集会に向けて連絡をとる方針となった。

4. アワードセッションについて（根尾担当理事）

・根尾担当理事がアワードセッション案の概要を説明し、各委員がアワードセッションを設けることに賛同した。

・根尾担当理事が発表者について、大正アワード 2 編、SSRR Best Paper Award 3 編、JSR Award 2 編の計 7 編とすることを提言し、各委員から異論はなかった。

・種市会長から、表彰式は総会以外の時間でやるべきと発言があり、アワードセッション枠で表彰式を行う事に各委員が賛同した。

・大鳥委員が、SSRR の受賞者が外国人の場合の発表形式を如何するか発言し、ビデオ発表が良いと各委員の意見が一致した。

・根尾担当理事が、アワードセッションの小冊子作成については会長任せであるが簡単な印刷物を作成することを提言し、各委員から異論は無かった。

5. プログラムガイドラインについて

・根尾担当理事がプログラムガイドラインの必要性について審議を依頼し、必要無いと決定した。

6. 次回委員会の日程調整

・基礎学会：10 月 19 日の朝に決定した。

7. その他

・種市会長から、今後のレジストリー研究の重要性を考慮すると、JSSR-DB 関連の報告は学会主導研究セッション枠でなく、JSSR 学術集会中に JSSR-DB 専用プログラムを設定（例えば 30 分程度）して報告・議論することが重要であるとの提言があり、委員から賛同を得た。

・種市会長から、令和 5 年度第 2 回当委員会の委員長は第 53 回学術集会会長（渡辺委員）である事が確認された。